

ニュース JAFIC EYE №232

10 月におけるサンマの漁況経過

1. 2021 年 10 月の漁況の経過

今年 10 月のサンマ棒受網における生鮮サンマ水揚量は 4,177.0 トンで、前年（10,979.5 トン）の 38%であった（表 1）。9 月の水揚量をやや下回っており、10 月になっても水揚量は増加しなかった。前年は記録的な不漁であり、10 月の水揚量が 1971 年以降で最低であったが、今年は前年をさらに下回り、過去最低の水揚量となった。生鮮サンマの平均価格は 723 円/kg で前年の 1.37 倍であった。

表 1. 10 月の生鮮サンマ水揚量と平均価格

	2020年		2021年		前年比	
	数量(トン)	価格(kg/円)	数量(トン)	価格(kg/円)	数量	価格
10月	10,979.5	527	4,177.0	723	0.38	1.37

（出典：おさかなひろば）

10 月上旬の主漁場は、前年同期よりも東側の公海である落石東南東 230～260 海里（漁場水温 12～17℃）、落石東 360～520 海里（漁場水温 12～16℃）であった（図 1、2）。また落石南南東 190～200 海里にも一時的に漁場が形成された。1 日 1 隻当たり最高漁獲量は、落石東 360～520 海里で 31 トン、他の漁場は数トンであり、9 月下旬よりも少なくなった。漁獲物は体重 100～120g モードであり、9 月下旬とほぼ同じであった。

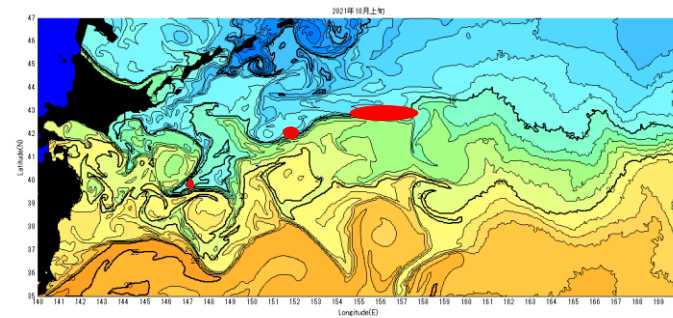


図 1. 今年 10 月上旬のサンマ漁場と海面水温分布

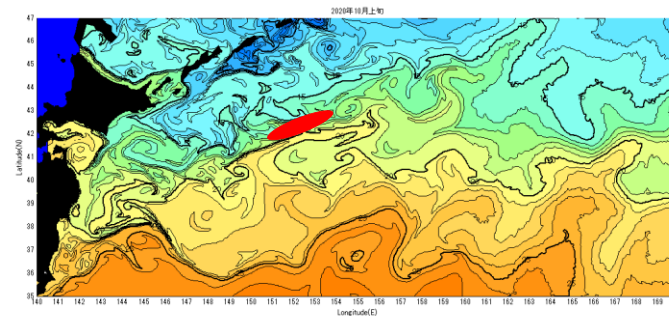


図 2. 前年 10 月上旬のサンマ漁場と海面水温分布

10 月中旬の主漁場は、前年同期よりも東側の公海である落石東南東 240～290 海里（漁場水温 11～16℃）、落石東 450～480 海里（漁場水温 12～14℃）であった。また、花咲港より 1 日程度の落石東南東沖（漁場水温 11～13℃）、落石南南東 200 海里～久慈東 190 海里（漁場水温 15℃）にも一時的に漁場が形成された。1 日 1 隻当たり最高漁獲量は、落石東南東 240～290 海里で 23 トン、落石東 450～480 海里で 16 トン、他は 0.2～数トンであり、10 月上旬よりさらに低下した。漁獲物は、体重 110～130g モードであり、10 月上旬よりもやや重くなった。

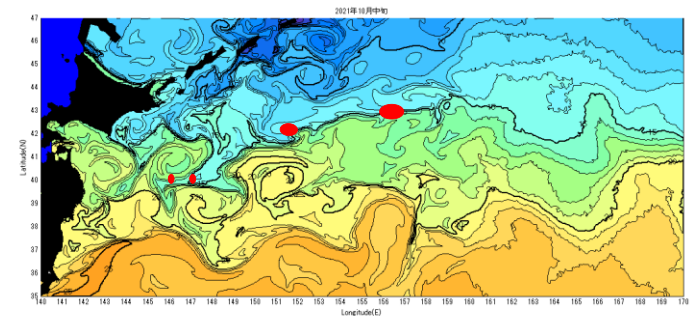


図 3. 今年 10 月中旬のサンマ漁場と海面水温分布

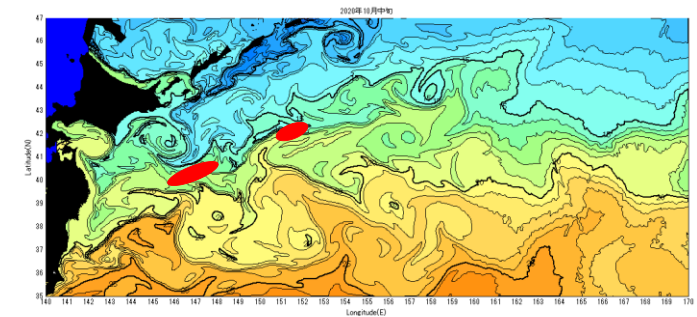


図 4. 前年 10 月中旬のサンマ漁場と海面水温分布

10 月下旬の主漁場は、前年同期よりも東側の公海である落石東南東 240～280 海里（漁場水温 12～17℃）、落石東南東 290～東 450 海里（漁場水温 11～15℃）であった。また、落石南南東 190～210 海里（漁場水温 14℃）にも一時的に漁場が形成された。1 日 1 隻当たり最高漁獲量は、落石東 370～450 海里で 66 トンであり、ようやくまとまった漁獲ができるようになった。漁獲物は、体重 110～140g モードであり、10 月中旬よりもさらに重くなった。

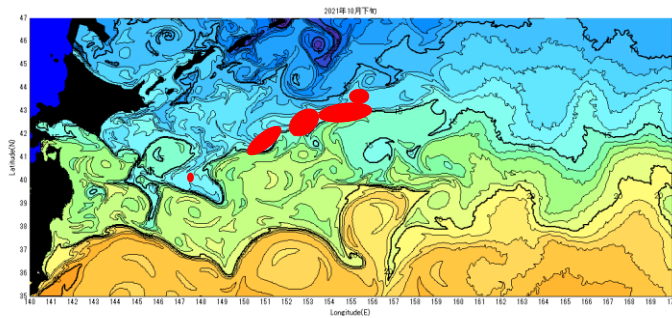


図 5. 今年 10 月下旬のサンマ漁場と海面水温分布

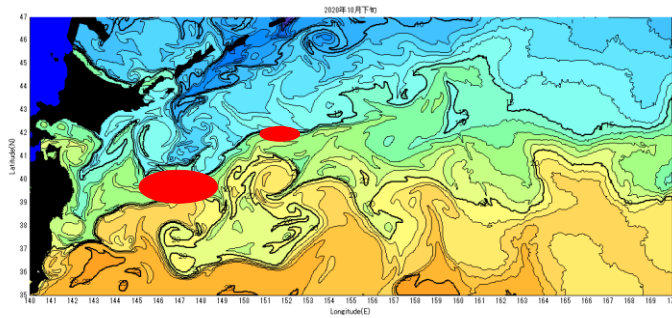


図 6. 前年 10 月下旬のサンマ漁場と海面水温分布

2. 2021 年 10 月の漁獲物

今年の 10 月中旬の漁獲物は、体長 29～30cm、体重 110～130g モードであった（図 7）。漁獲物によっては体長 25～26cm、体重 60～70g 台が混じった。前年の同期の漁獲物は体長 29～30cm、体重 110～130g モードであった（図 8）。前年と比べると、今年は 0 歳魚が混じる他は、1 歳魚の体長組成、体重組成はほぼ同じである。10 月 15 日夜の漁獲物について、体長と体重の関係を前年と比較すると、1 歳魚の太り具合は、前年とほぼ同じであった（図 9）。

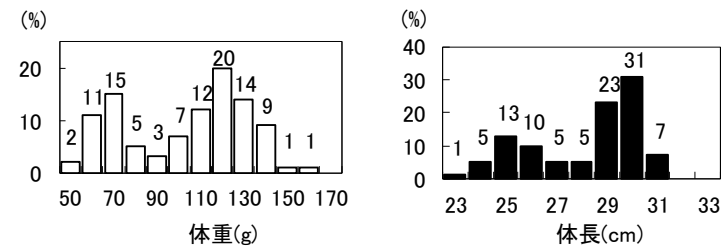


図 7. 今年 10 月中旬のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図)

2021 年 10 月 15 日夜操業、18 日花咲水揚

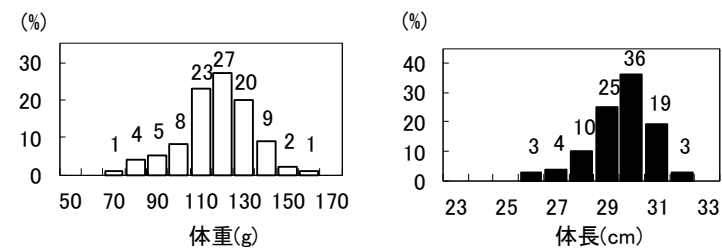


図 8. 前年 10 月中旬のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図)

2020 年 10 月 15 日夜操業、17 日花咲水揚

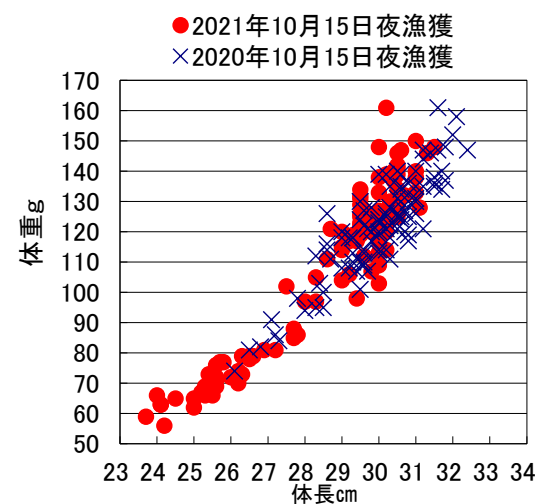


図 9. 今年と前年 10 月中旬のサンマ体長と体重の関係

今年前年ともに 10 月 15 日夜操業

今年の 10 月下旬の漁獲物は、体長 30～31cm、体重 130～140g モードであった（図 10）。前年の同期の漁獲物は体長 29～30cm、体重 110～120g モードであった（図 11）。前年と比べると、今年の魚体はやや大きい。10 月下旬（今年 10 月 27 日夜、前年 10 月 25 日夜）の漁獲物について、体長と体重の関係を前年と比較すると、同じ体長における 1 歳魚の太り具合は、前年に比べて 10g ほど太っている（図 12）。

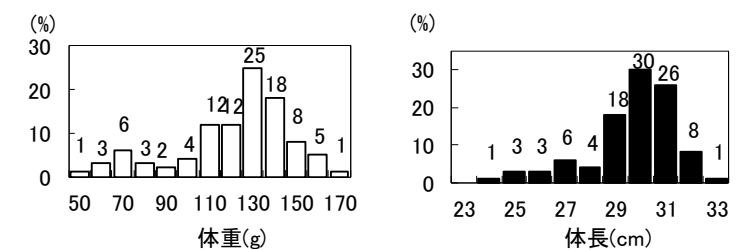


図 10. 今年 10 月下旬のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図)

2021 年 10 月 27 日夜操業、29 日花咲水揚

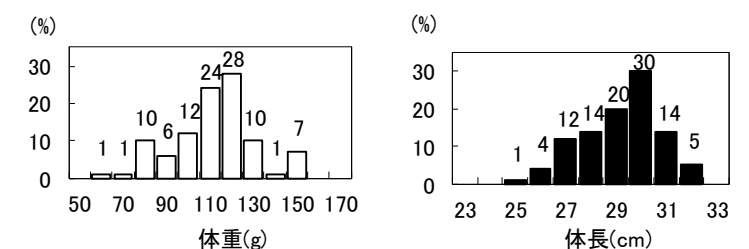


図 11. 前年 10 月下旬のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図)

2020 年 10 月 25 日夜操業、28 日花咲水揚

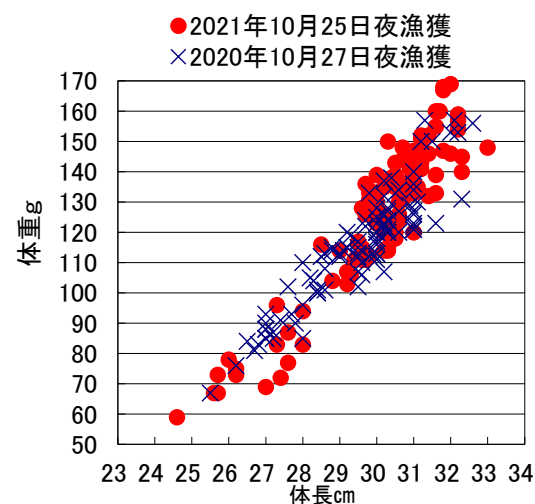


図 12. 今年と前年 10 月下旬のサンマ体長と体重の関係
今年 10 月 27 日夜操業、前年 10 月 25 日夜操業

3. 現状分析と今後の見通し

今年は 9 月 21 日夜に花咲東南東 300 海里付近に南下群

が出現した。南下群の出現時期は、前年よりも約 8 日早かった。例年、南下群が出現すると、後続の魚群が続き漁獲が上向く。しかし、今年は 10 月上旬に台風 16 号から変わった低気圧の影響で海が時化した後、魚群が散ってしまい、その後魚群がまとまらない状況となり、どこに行ってもサンマがいない状況が続いた。このため、10 月の水揚量が伸び悩み、過去最低の水揚量となった。

10 月 25 日夜に、ようやく 1 日 1 隻当たり最高で 66 トン漁獲され、新たな南下群が出現した。この南下群の出現場所は、花咲東 400～430 海里であり、非常に遠い場所であった。以降、11 月中旬に至っても主漁場はこの付近である。この新たな南下群の太り具合は前年よりも良く、体重 130g 以上が 5～6 割程度を占めている。また 0 歳魚の混じりが少ないのが特徴である。

今後、これらの魚群が徐々に西へと移動してくるであろう。0 歳魚の混じりが多くなると、そろそろ南下群が途切れるイメージとなるが、現在はそのような状況にはなっ

ていないため、もうしばらく漁場は持続する可能性がある。一方、漁場が遠く、1 週間に 1 回程度しか水揚げできない状況が続いていることから、前年と比べて水揚量が少ない状況が続いている。今後は、時化の影響がどの程度となるか、漁場がいつ頃近づいてくるか、12 月に入っても漁獲が続くかが焦点となる。前年よりも魚体は良いことから、水揚げが増えることを期待したい。

(水産情報部)